

地震のあった日

石原 茉柚

私は、お母さんと弟と買い物ですませて帰ろうというところで地震にありました。出入り口にむかって歩いていました。その時に、いきなりたいこをたたいたような大きな音がしました。私は、何かのせん伝かと思つて、あまり気にしませんでした。そのあとに、天と地がひっくり返つたような地震が

おきました。私はその場に立っていられなくなつて、しゃがみこんでしまいました。となりについていた人たちの頭に、天上のかべが落ちてきていました。私たちの上にある天上は、大じょう夫か心配になりました。となりの人たちも大じょう夫か心配になりました。そして、地震がおさまつたとき、急いでにげだしました。たくさんの人が出入り口にむかつて走つていました。私は一秒でも早く外ににげだしたいと思いました。

外に出てからもよ震が何回か続きました。でも、だんだん小さい地震になってきました。私は少しほっとしました。でもこれから私はどうなるのだろうと心配になりました。そして、家にいるおじいちゃんとおばあちゃんには、ぶじかどうか心配になりました。

その日は、とても寒くてこごえそうでした。山古志に帰れるか心配でした。そう思っていたとき、近くにいた人が、「寒いけれどがんばって。」

と、声をかけてくれました。私はとても心の中が、あたたかくなつたような感じがしました。人に声をかけてもらうだけで、心があたたかくなつたりするんだなと思いました。次の日から三日間くらいはそこにいて、車の中でおていしました。しばらくして、ひなん所に行きました。今は、仮設住宅でくらしています。不自由なことも、少しありますが家族と支えあいて幸せにくらしています。